

-Index- 大学での学びについて —本校卒業生より—
英語学習（小学部の取り組み）
紙上報告 夏季研修会
「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当する教員研修会」
「養護教諭セミナー」



大学での学びについて 一 本校卒業生より

前号では、聴覚障がいのある大学生（本校卒業生）から、高等学校での学びについて原稿を寄せていただきました。今号では、大学での学びについて、ご紹介します。ぜひ参考になさってください。

志望大学を決めた理由について

取りたい資格があったので、まずは資格の取れる大学から探して、自分の成績で入れる大学を絞りました。それからオープンキャンパスなどに行って、どのような配慮をもらえるかを聞いて決めました。



大学に入学するまでに準備したこと

心理学科の学生に自分の耳のことについて紹介する機会をいただいたので、教授に読み上げてもらうための原稿を用意しました。クラス単位で学校生活を送る高校のときと比べると、教授対自分間のコミュニケーションの取り方や、授業内容をきちんと理解することに照準を当てていたもので、特に準備しないといけない！というようなことは、あまり無かったように思います。

大学での配慮について（配慮場面と配慮方法など）

「ロジャー」は、騒音下などにおいて、ことばのききとりを向上させる補聴援助システムの一つです。「ロジャータッチスクリーンマイク」や「ロジャーセレクト」などの送信機と、「ロジャーエックス」などの受信機を 사용합니다。

ノートテイクがメインです。ただ、人員の問題で全ての授業につけてもらうことは難しいので、UDトークを用いたり、教授からはスライドの資料を個別にもらう等の配慮をさせていただいたりしています。また、コロナでオンライン授業が始まってからは、授業内容を録画して後で文字起こしをしてもらうこともありました。対面授業ではロジャーを使って音を集めて文字変換の精度を上げたので、マスク越しでもなんとか授業の内容が分かりました。

大学との配慮内容の相談について（相談時期・場面配慮など）

合格後、学生生活課の方とお話しする機会を設けていただきました。またそれだけではなく入学式のあと、心理学科の教授と保健センターのスタッフとの話し合いを経て、自分が受ける全ての授業の教授方に配慮についての内容を記載した書類を配付していただきました。



自分のきこえ方についての説明（入学後）

高校のときは学年の生徒全員に伝えましたが、大学では主に同じ授業を受けることの多い心理学科の学生全員に伝えました。教授には障がいや配慮について作成した書類を配付していただいたうえで、最初の授業で顔を覚えてもらうために、必ず挨拶に伺いました。オンライン授業（Zoom）のときは、事前にメールで「耳がきこえないので、指示をきき逃すかもしれません」等伝えました。（※Zoom以外のオンライン授業は、動画に字幕を入れてもらう、資料に教授の話す内容が書かれている…といったものが多かったので、理解しやすく助かりました。）

大学生生活で困った場面

授業の内容が分からないときなどもありました。そのときは教授に連絡して、改めて教えていただけないかなどの旨を伝えて、個別に教えていただきました。

また、大学に今まで重度難聴の学生が在籍したことがなかったので、配慮をお願いしたときに、1度で理解してもらえなかったこともあり、「何故その配慮が必要なのか？」などをしっかり繰り返し説明して理解を得られたので、諦めないで良かったと思います。

今後の夢や目標

まずは公認心理師の資格を取ることです。その後は今この仕事をしたい！というのはまだ固まっていますが、公認心理師の資格を活かして、聴覚障がいのある人達の心理面をサポートできる仕事に就きたいと思い、職種を模索中です。

＼聴覚障がいのある高校生へのメッセージ／

大学をめざす、仕事に就く、または別の道を目指す、等、高校を卒業した後は様々な道があります。どの道も今までとは全く違う世界が広がっていて、不安を抱えることもあるかもしれませんが、その不安をマイナスに捉えるのではなく、『将来の自分にとってプラスになるかも？』と前向きに捉えて、むしろ楽しんでいこう！という気持ちで新しい世界に飛び込んで欲しいと思います。

—インタビューへのご協力、ありがとうございました！—

英語学習（小学部の取り組み）

2020年から全国の小学校で英語科目が必修化となり、聴覚障がいのある児童への指導方法について悩まれている声が、本校によく寄せられています。そこで、本校小学部での取り組みについて、小学部教員（李東虎）より、ご紹介いたします。

聴覚支援学校での「外国語」の授業をどのように進めて指導していけばいいのだろうか・・・初めは悩みながら、試行錯誤しながらの日々でした。「ただでさえ英語が複雑でわかりにくいのに、ますます英語が嫌になって欲しくない」「児童たちには英語に対して楽しみながら親しみを持って欲しい」という思いで、教材を創意工夫しながら授業を行っています。

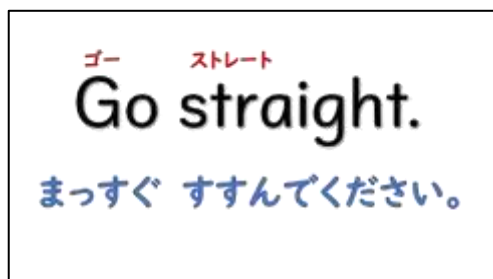
英語の読みはフォニックスに沿って指導することが多いと思いますが、それをきいて覚えるのではなく、視覚的に理解して読むことに慣れることができるようにしてもらいたいと考え、指導しています。例えば、アルファベットでは、アルファベット表示の上にルビを付けて読む練習を繰り返し、自然に定着できるよう指導しています。

（図①）

また、児童が読みやすいように、英単語の上に赤色のルビで英語の読みを、青色で意味（日本語）を標記したものを視覚教材で示したり、教室に掲示したりして、英語・読み・意味（日本語）そのものがマッチングできるように工夫をしています。（図②）



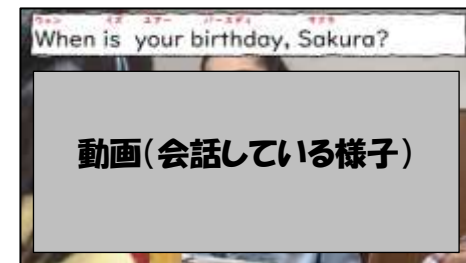
図①



図②

聴覚障がいのある児童にとって、英語を『きく』活動となると、「早くてききとれないし、何と言っているかわからないから不安。」という気持ちになる子が少なくありません。そのまま英語に対する苦手意識が強くなってしまえば、元も子もありません。そのため、リスニングをするときに、初めは音声のみ流しますが（動画で見せるときもあります）、その後、必ず字幕を付けたものを見せて、視覚的に読みとることができるようにしています。（図③）

その際、全ての内容をきいて理解させる必要はないと考えて指導しています。リスニングを始める前には、必ず児童たちに「初めは声だけだけど、ききとれなくても大丈夫だよ。後で字幕が付いたものが出てくるからそれを見てね。」と声かけをするようにしています。そうすると、児童が「●●●の話をしているのはわかった。」と発言するなど、重度難聴の児童であっても、字幕を見てどのように話しているか理解できる場合があります。このように、英語をきいたり、見たりすることで、一部の単語だけでも理解することができれば、ききとり・読みとりの内容としては、十分良いのではないかと考えています。また、少しでもわかったときには、児童に「よくわかったね!」と褒めることで、「ちょっと英語がわかったぞ!」という気持ちを育てていくことが大切なのではないかと、授業をしてみて感じるようになりました。



図③

英語を使ってお互いにコミュニケーションを図る活動も多く取り入れています。そのため、定型文など英語でよく使うようなフレーズを毎回教えて、普段から英語を使うことを意識づけるようにしています。（図④・⑤）



図④



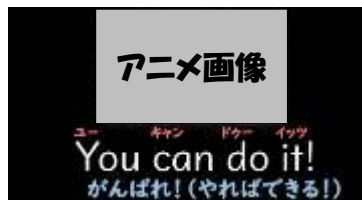
図⑤

それらを用いて、道案内やレストランなど、場面に合わせてお互いにやりとりをする機会やゲームなどを設定することもあります。児童たちは、道案内をしてくれたお礼にアメをあげるやりとりを考えて取り入れるなど、楽しみながら会話をしている様子が見られました。先述した動画の意味（日本語）を確認してプリントに記入し、それぞれの役で劇をする学習も取り入れています。（図⑥）



図⑥

また、「That's right.」や「Thank you.」などよく使うフレーズについては、アメリカ手話も教えることで、外国語の授業や日常生活でも使ってもらえるようにしました。児童にとって親しみのある「鬼滅の刃」の英語 ver. のセリフを出してそれに当てはまる英語を学習することもあります。(図⑦)



図⑦

聴覚障がいのある児童に英語を教えることは難しく、「どうしたらいいのかな?」と行き詰まることもあるかと思います。一度指導してみて、失敗をすることもあるかもしれませんが、そのときは、「何があかんかったのかな?」とフィードバックをして、次につなげることができたら良いと思います。いろいろ試行錯誤しながら教材を改良させることで、児童たちが楽しみながら理解し、英語の学習に取り組んでもらえたら、教員として、とてもやりがいがあると感じています。そして、外国語の指導にあたっては、教科書や学習指導要領の内容に沿って指導をしていくことが大事だと思いますが、それと同時に、児童たちにとって英語が楽しいと思えるように指導をしていくことも大事だと考えています。

紙上報告！夏季休業中 研修会

本校主催の研修会に、今年度もたくさんの先生方にご参加いただきました。アンケートの内容(一部抜粋)とともに、紙上報告します。

第11回聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当する教員研修会

令和4年8月3日(水) 参加者27名

【全体講座】きこえと補聴機器

全体講座では「きこえと補聴機器」というテーマで、本校の聴能担当からお話をしました。きこえの仕組みや補聴器・人工内耳の機能、管理方法についてなど、聴覚に障がいのある子どもたちを担当する先生方に、ぜひ知っていただきたい内容について、お伝えしました。

- 基本的なきこえのしくみがよくわかりました。**感音難聴と伝音難聴のきこえの違い**がよくわかりました。きこえ方の違いを視覚的にあらわしていただいたので、とてもわかりやすかったです。
- 補聴器に種類がある**ことを初めて知りました。また使うときの注意点も参考になりました。



【選択講座】

A きこえにくい生徒の想い

- 次年度、中学部に入学を希望している児童がいるので、**自分のきこえについてトリセツを一緒に作ってみたい**と思います。ありがとうございました。
- いろいろな例や、過去の経験を聞けました。また、**難聴者の想いをリアルに聞く**ことができました。
- アンケートを通して、**子どもが思っている素直な気持ち**を聞くことができてよかった。



B 発音指導

- 発音のことはもちろん、そこにつながる遊びの実践**を教えてください、ありがたかったです。きこえはどうか、粗大運転はできるか、などなど、見立ての際に見るポイントや考え方など根本の部分の考え方を話していただいたのも、参考になりました。
- 発音する際は、**必ず視覚的な手掛かりを示してから行うこと**で自然な発音ができるよう促していること。また、発音や口形指導をどのようにされているのかという事がとても分かりやすかった。



C 手話

- たくさん手話を教えていただけ勉強になりました。**具体的に知りたい言葉や文**も手話で教えていただけでよかったです。
- いろいろな単語や文章を練習できて楽しかったです。



D ことばを育てよう

- 具体物をいろいろ提示しながら話してくださったのでとても参考になりました。**夏休みに必要になりそうな絵カード、写真、ことばを作成したい**と思いました。
- クイズをするにあたって、イラストだけで十分だと思っていましたが、**文字(ひらがな)も同時に出してあげることでより理解を深め、言葉を獲得できる**ことを学ぶことができました。



【実践交流会】

- ・日ごろから抱えている悩みをお互いに共有することが出来た。多くの学びがあり、2学期から実践できることは行っていききたいと思う。
- ・年齢層別でお話しできたのが良かったです。悩みは別々でも、他の参加者の方の視点を聞いて、参考になる部分がありました。中央聴覚の先生方も、異なる所属の先生方が一つのグループにいてくださって、異なる視点でのお話しが聞けて良かったです。
- ・保育での悩みを相談することができたのでよかったです。他の園の様子も聞くことが出来たので良かった。

第22回 養護教諭セミナー（聴覚に関する知識と実践）

令和4年8月4日（木） 参加者 17名

【講座1】養護教諭が知っておくべき耳鼻咽喉科の知識

本校で耳鼻科校医を務めていただいている西村将人先生より、養護教諭の先生方に知っていただきたい耳鼻咽喉科に関する基礎的なお話をさせていただきました。



- ・解剖学からプール前検診のことまで幅広く耳鼻科領域のお話をいただき大変勉強になりました。学校検診で判断出来ること出来ないことも説明いただき、ありがとうございました。
- ・健康診断で多い疾病の説明を詳しくしていただいたので、生徒や保護者にわかりやすく説明ができたと思いました。
- ・学校保健の観点で耳鼻科領域のお話を聞かせていただくことがほとんどないので、日頃の悩みの解消になりました。ありがとうございました。

- ・耳の疾病に関する病院での処置と、学校でそうした場合にどのような学習配慮を行えば良いかなど、学ぶことができました。
- ・高校でも今年度より耳鼻科専門医による耳鼻科検診が実施されることになったので、とても参考になりました。

【講座2】きこえにくい子どもたちの育ち

—難聴児の発見から進学・就職まで—

本校中学部の教員より、地域の学校での学びや進学就職、難聴の子どもたちを取り巻く教育について、お話ししました。

- ・生い立ちから現在に至るまでの盛り沢山の貴重なお話をいただきありがとうございました。お話しに引き込まれ、あっという間の時間でした。「個性という言葉は魔法の言葉で無責任な言葉でもある」というお話のところがすごく印象に残りました。
- ・講師の先生のお話が実体験に伴いお話しされており大変興味深く、面白かったです。ありがとうございました。
- ・子どもたちが学習面やコミュニケーションのとり方につまずいたときに、心を落ち着かせることができるような保健室を作っていきたいと思った。
- ・聴覚障がいのある方の卒業後の進路がわかり、職場で説明しやすくなりました。



【講座3】情報交換会



- ・人工内耳について知識がなかったので、学びを深めることができ良かったです。
- ・補聴器を使用している子どもに関して学校でどのようなことに気をつけているかなど具体的なお話をいただき勉強になりました。ありがとうございました。
- ・他校の様子や、支援学校での取り組みを知ることができ、大いに参考になりました。
- ・中学校や高校に心因性難聴や聴覚過敏の子どもたちが在籍している話をきいて驚きました。
- ・事前に質問を書かせていただき、ご丁寧に回答いただけて助かりました。今後の対応に活かしていきたいと思えます。
- ・情報交換会と聴能室で、さまざまな質問や各校での困りごとに親切丁寧にお答えしていただきとても感謝しております。学ぶことや参考になることが多かったです。今回参加できてとても良かったです。

アンケートのご協力、ありがとうございました。1月には教員研修会「みみネットアカデミー」を実施する予定です。ぜひご参加ください。

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800